

穂学

令和2年度

広州日本人学校 学校便り

[No. 19]

令和2年1月11日(月)

発行責任者 校長 喜屋武浩司

「令和3年、元気にスタート！」

令和3年が始まりました。ここ中国では春節（旧正月）で新年を祝うため、日本ほど新年の賑わいはありませんが、街のあちらこちらに「新年快樂」「恭賀新喜」などの言葉が掲げられています。皆さんはどんな正月を過ごされましたか。

今年は「丑年」。前回の「穂学」で掲載したとおり、丑年は大変な農業を地道に最後まで手伝ってくれる様子から、丑年は「我慢（耐える）」や「発展の前触れ（芽が出る）」を表す年になると言われています。コロナ禍の中、まだまだ以前のおりとはいきませんが、今は我慢して次の発展へと繋いでいけたらと、思いを新たにしているところです。

さて、今年度3学期が1月6日（水）に始まり、この日から新たに登校を始めた児童生徒が15名でした。これにより、在籍児童生徒数が237名（内、登校児童生徒は216名）となりました。また、全ての学年で、年度初めに予定していた学級で3学期を迎えました。一学級の人数は少なくなりますが、学習面でのきめ細かな指導ができるよう努めていきたいと考えています。また、係活動などひとりひとりの役割がしっかりと果たせるよう支援していきたいと思えます。2月6日（土）の授業参観で、学級やお子様の様子をご覧いただけたらと思えます。

3学期は40日ほどしかないと始業式で話をしました。3学期はまとめの学期として様々な面で忙しく感じる学期です。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」とよく例えられます。8日間の春節休みも入ることから、さらに早く感じられるかもしれません。始業式では、小学部を代表して河野絢芽さん（3年）が、三つの教科を例に挙げ、「苦手なものを努力して良くしていき、来年カッコいい四年生になりたい。」と決意を述べました。また、中学部からは伊藤帆香さん（1年）が、「この一年間で学習したことをしっかりと確認し、次の学年に備えたい。運動を心がけ体力をつけたい。」と力強く話してくれました。ひとりひとりの児童生徒の頑張りに期待しています。

昨年12月に令和2年度の「学校評価アンケート」（保護者、児童生徒、教師）を実施しました。速報として、5つの大項目中の質問事項の前年との比較をお知らせします。なお、加除修正した質問は比較から外しています。



		質問数	前年比(+p)	前年比(-p)
1	自ら学ぶ子の育成	17	10(+2.3 ~ 16.4)	5(-0.4 ~ 9.6)
2	個性豊かな子の育成	18	14(+0.1 ~ 9.7)	4(-0.1 ~ 0.6)
3	国際社会に生きる子の育成	15	10(+1.2 ~ 25.8)	1(-2.1)
4	健康・体力・安全等	18	14(+0.8 ~ 29.0)	4(-0.4 ~ 1.3)
5	学校環境、その他	10	10(+0.4 ~ 22.6)	なし